

もの・ひと・じかん づくり



20代の頃に…

スウェーデンの伝統工芸であるフレミッシュ織の作品を婦人雑誌で見て、魅せられたのがはじまりです。

30代に…

「小さな絵織物」(アナグリウス・ケイ子著)の本に出会い、お稽古に通い、織りたいものを夢中で織り続けた10年間。自分の色、かたち、心模様が織り込まれるのを感じ、個性や私らしさが育まれました。

その後…

陶芸、かご、草木染め・・・と好きなものをおもむくままに作り、作品の幅を広げてグループ展にも参加し、その仲間たちの交流も楽しみます。

最近は…

「パイスケ」というカゴが、かつて地元の特産品であったことを見いだしたことはじまり、栄区の「アートでつながるショップ3」への出展や、栄区 egao プロジェクトのお土産づくりに参加するなど、地元がおもしろくなっています。

歳と共に月日が早く流れる昨今、
四季折々を感じながら、心ゆたかに――
自然の恵みをありがたく想い――
“もったいない”のころを忘れず――
穏やかに暮らしたいですね。